

<p><b>教育目標</b></p> <p>たくましく心豊かな子どもの育成                  ～主体的に環境に関わり，好奇心・探求心豊かに夢中になって遊ぶ子どもの育成をめざして～</p>	
<p><b>年度末の最終評価</b></p>	
自己評価	<p>教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p>

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	令和5年10月20日	学校運営協議会もえぎティンクル
最終評価		

(1) 幼稚園教育（保育の改善・充実）について

<p>具体的取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幼児期において、遊びを通して思考力が育まれていくプロセスを追う。</li> <li>・ 子どもの“ねがい”と教師の意図が絡まり合い、環境構成や援助を行う遊びのプロセスをドキュメンテーションにより可視化する。</li> <li>・ 本研究と架け橋プログラムの研究と関連させ、思考力の育成で幼児期に大事なことを明らかにする。</li> <li>・ 環境構成や援助について、小学校の教員とともに語り合える機会をもつ。</li> </ul>
<p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 子どもの姿の変容や日々の保育実践</li> <li>・ 「思考力」についての保護者アンケート結果</li> <li>・ 外部への研究成果の発信回数や外部からの意見</li> </ul>

中間評価

<p>各種指標結果</p>
---------------

- ・具体的な写真を用いた実践事例の表し方について、話し合い共通理解をし、事例検討を深めた。
- ・各学年における「思考力とは？」ということについて検討した。
- ・事例の中から、子どもの“ねがい”と教師の意図を読み取り、その環境や援助について話し合い、次の保育について園全体で話し合い進めていくことができた。
- ・園内研究に小学校の先生に参加していただき、共に事例検討を行うことができ、幼児期に大切にしたい非認知能力が育つ姿などを話し合うことができた。
- ・「思考力」についての保護者アンケート結果「お子さんは、幼稚園生活を通して興味・関心がひろがっていると思いますか？」大変そう思う・そう思う 100%「お子さんが感じたり気付いたりしたことを共感する機会をもっていますか」大変そう思う・そう思う 100%「お子さんが自分でしようと考えていることを見守ったり、一緒に楽しんだりしていますか？」大変そう思う・そう思う 99%
- ・外部への研究成果の発信回数や外部からの意見  
小学校教員へ事例の提示 1回 それぞれの発達に見合った生活を大切にする中で、たくさん感じ、考えていることがわかり、非認知能力が育つ環境と援助について学べたというご意見をいただいた。

自己評価

**分析（成果と課題）**

- ・写真を用いた具体的な実践事例の形式をそれぞれの教員が創意工夫していく中で、「可視化」するための形式の検討を進めることができた。
- ・各学年にとっての「思考力とは？」について事例を通して読み解き、その特徴について共通理解することができた。
- ・ICT 機器を利用して動画や写真で研究保育の振り返りをする中で、子どもの姿を共有することができ、深く分析することができた。
- ・毎月、子どもたちが主体的に自分で考えて生活する環境について具体的に全学年で話し合うことで、より思考力を意識した環境を作り出すことができた。

**分析を踏まえた取組の改善**

- ・更に発信するために有効な「可視化」された実践事例の形式について検討していく。
- ・他の幼保施設に事例を提示し、共に検討し、幼児教育で大切なことについて共通認識をもてるように広めていく。

**（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標**

- ・子どもの姿の変容や日々の保育実践
- ・「思考力」についての保護者アンケート結果
- ・外部への研究成果の発信回数や外部からの意見
- ・他の幼保との事例検討やカリキュラムマネジメントの実践

学校関係者評価

**学校関係者による意見・支援策**

- ・写真などで子どもの姿を提示してもらうことで理解しやすい。
- ・子どもたちを取り巻く環境や保護者の変化の中でも、公立幼稚園が大切にしてきた「主体性」が大切にされていることがわかる。

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果	
自己評価	分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題
	分析を踏まえた取組の改善
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策

**(2) 架け橋期の教育の充実に向けた幼保小連携・接続に関して**

具体的な取組
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 進学前後に小学校と子どもの様子を伝えあい、子どもが安心して小学校生活を送れるように支える。</li> <li>・ 地域の幼保小を互いに参観したり共に研究保育や研究授業を行ったりすることで、教員同士が互いの教育を知る機会をもつ。</li> <li>・ 地域の幼保施設と合同で園外保育に出かけたり授業に参加したりするなど、子どもたち同士の交流を行う。</li> <li>・ 地域の小規模保育園と連携し、0～2歳の保育との連携を行う。</li> <li>・ 昨年度作成した架け橋期カリキュラムをドキュメンテーションにより見直しを行う。</li> </ul>
(取組結果を検証する) 各種指標
<p>保育参観 (参加)・授業参観を計画的に行い、相互の教育の理解。</p> <p>架け橋期のカリキュラムの実践・検証・見直し状況。</p> <p>近隣の就学前施設や小学校への発信・交流状況</p> <p>「架け橋プログラム」の取組についての保護者アンケート結果</p>

中間評価

各種指標結果
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 進学直後の公開授業に参加し、小学校と子どもたちの状態について共有することができた。</li> <li>・ 京都御苑での交流や小学校のスポーツフェスティバルへの参加の取組の中で、子どもたちの小学校へのイメージは具体的になり、とても安心感や期待をもつ姿が見られている。</li> <li>・ 架け橋プログラム御所南小ブロックの中で、私立幼稚園や民間保育園の保育参観、小学校の授業参観に積極的に参加し、自園も保育を公開して、相互の教育の理解に努めた。</li> <li>・ 実践事例を小学校と共に積み上げられるように検討した。</li> <li>・ 校内研究・園内研究に共に参加し、子どもの成長や援助・指導について話し合うことができた。</li> <li>・ 架け橋期のカリキュラムの実践・検証・見直しについては、他の施設との検討は近日行う予定。</li> <li>・ 小学校や民間保育園との交流を実施し、また担任同士の話し合いや交流の事前の話し合いや交流場所の下見を行う中で、人間関係を築きつつある。</li> <li>・ 「架け橋プログラム」の取組についての保護者アンケート結果「小学校との連携や交流をすること</li> </ul>

は子どもの育ちにつながっていますか」大変そう思う 54%・そう思う 46%「幼稚園は小学校と共に積極的に幼保小連携に取り組んでいると思いますか」大変そう思う 52.8%そう思う 44.4%余りそう思わない 1.9%見回答 0.9% 自由記述「学区以外の小学校に通う予定の幼児も相当いるので近隣の市立小学校との連携にも取り組んでほしい」

自己評価	<b>分析（成果と課題）</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実際の交流や連携により、子どもたちの小学校生活への思いは肯定的なものとなってきている。</li> <li>・幼保小の教員同士が話し合う機会をもつように努めた。校内研究に参加したり、園内研究に小学校より参加してもらったりして、子どもの具体的な姿から話し合うことができた。</li> <li>・連携する小規模保育事業所を参観したり、子どもたちを園内に招いてその様子を見たりして保育者同士の交流を図った。</li> <li>・幼保小架け橋プログラムブロック共通の視点である「思考力」について、写真を用いた実践事例を検討した。カリキュラムマネジメントについては、ブロック内幼保とこれから行う予定を立てた。</li> </ul>
	<b>分析を踏まえた取組の改善</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・交流等の事前・事後の話し合いの充実</li> <li>・幼保との日程の調整と内容の共有、カリキュラムマネジメント検討を進める。</li> <li>・架け橋プログラムの取組についての保護者等への発信の充実</li> </ul>
	<b>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育参観（参加）・授業参観を計画的に行い、相互の教育の理解。</li> <li>・架け橋期のカリキュラムの実践・検証・見直し状況。</li> <li>・近隣の就学前施設や小学校への発信・交流状況</li> <li>・「架け橋プログラム」の取組についての保護者アンケート結果</li> </ul>
学校関係者評価	<b>学校関係者による意見・支援策</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校との連携が子どもたちの安心感につながっていくのはとても良い。</li> <li>・幼保小の担任の先生方が、共に地域の子どもたちの成長を話し合う機会があるのはとても良い。</li> <li>・架け橋プログラムの内容を保護者などへ発信を進めていってほしい。</li> </ul>

最終評価

<b>（中間評価時に設定した）各種指標結果</b>	
自己評価	<b>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</b>
	<b>分析を踏まえた取組の改善</b>
学校関係者評価	<b>学校関係者による意見・支援策</b>

(3) 預かり保育に関して

### 具体的な取組

- ・ 日々保育を振り返り、個々の興味関心に応じ、やりたいことがゆったり楽しめる環境を整えたり、子どもの興味や発達、時期や季節等から遊びに新鮮さや変化も取り入れたりし年間を通して内容の工夫をする。
- ・ 未就園児クラス（満3歳児）の預かり保育の提供の実施を始める。
- ・ 担任、預かり保育担当教員、家庭との連携を密にとる。

### （取組結果を検証する）各種指標

- ・ 預かり保育での日々の子どもの姿の振り返りと指導計画の見直し
- ・ 担任や預かり保育担当教員との連携状況や聞き取り
- ・ 預かり保育の姿からの発信状況
- ・ 「預かり保育」についての保護者アンケート結果

## 中間評価

### 各種指標結果

- ・ 日々子どもの遊びの姿を見ながら、個々の興味・関心に応じ、やりたいことができる環境や時間の確保に努めている。
- ・ 担任と預かり保育担当教員とが日々連携し、保育中の姿を伝え合い、一日の子どもの過ごし方についても配慮し、その日の預かり保育の計画を見直したりして進めている。
- ・ 預かり保育での遊びの様子をホームページに掲載したり、預かり保育でつくった子どもの作品を写真に撮り作品集を作成して保護者にも見てもらえるようにしたりした。
- ・ 未就園児クラス（満3歳児）の預かり保育の提供実施を始めた。
- ・ 保護者アンケート「お子さんは、預かり保育での遊びを楽しみにしていますか」  
大変そう思う・そう思う86%

### 自己評価

#### 分析（成果と課題）

- ・ 担任と預かり保育担当教員とが、日々声を掛け合い子どもの様子を伝え合い連携が進められている。引き続き取り組んでいきたい。
- ・ 保護者アンケートからは、86%の子どもたちが預かり保育での遊びを楽しみにしていると回答いただいた。アンケート結果から多くの子どもたちが、預かり保育での遊びを楽しみにしていることが読み取れた。後期も引き続き、遊びの内容の工夫に取り組んでいきたい。また、保護者からの意見としては、預かり保育での遊びの様子がもう少し伝わると安心だという意見がみられた。発信の工夫をしていきたい。
- ・ 未就園児クラス（満3歳児）の預かり保育の提供ができた。

#### 分析を踏まえた取組の改善

- ・ 預かり保育の内容の工夫
- ・ 預かり保育での遊びの様子の発信の仕方を工夫する。
- ・ 未就園児クラス（満3歳児）の預かり保育については、後期に利用者が増加していくことが予想されるが、未就園児クラス（満3歳児）の預かり保育の提供が始まったことへの周知にも取り組んでいきたい。

#### （最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標

- ・ 預かり保育での日々の子どもの姿の振り返りと指導計画の見直し
- ・ 担任や預かり保育担当教員との連携状況や聞き取り

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 預かり保育の姿からの発信状況</li> <li>・ 「預かり保育」についての保護者アンケート結果</li> </ul>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 毎日預かり保育を利用の保護者は、なかなか園での子どもの様子が見えにくいだらう。毎日預かり保育を利用の保護者にも中京もえぎ幼稚園の教育や日々の子どもの様子(発達や成長・子どもの学び等)を知ってもらえる伝えるための機会を作るなどの工夫が必要。日程調整してもらいやすいように年度初めに知らせておくことや参加しやすいように他の行事と合わせるなどの今後の工夫が必要。</li> </ul>

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果	
自己評価	分析(成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題
	分析を踏まえた取組の改善
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策

(4) 子育ての支援に関して

<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 子育て相談であるほっとチャットを行ったり、家庭教育講座等を開催したりし保護者の学びや情報交流の場を設定する。</li> <li>・ 未就園児クラス(満3歳児)への預かり保育提供の実施を始める。</li> <li>・ 未就園児の教育相談として、運営協議会や地域の方、元保護者・現保護者の方など子育てについての不安や相談、体験談、情報提供等を受けたり、話したりできる場作りや企画の提供を行ったり、未就園児クラスと在園児とのふれあいの場を設定し、子どもの育ちや発達を知る機会を設定したりする。また、保護者同士のつながりづくりに努める。</li> <li>・ 地域の小規模施設や就学前施設との連携に取り組み、保育参観をし乳児の育ちを学び子育て支援に活かす。</li> </ul>
<p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 未就園児教育相談への参加者の意見</li> <li>・ 未就園児教育相談担当者への聞き取り</li> <li>・ 小規模保育事業所との連携状況</li> <li>・ 未就園児教育相談についての発信状況</li> <li>・ 「未就園児の教育相談」についての保護者アンケート結果</li> </ul>

中間評価

<p>各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 子育て相談であるほっとチャットについては開催できた。家庭教育講座については後期に計画して</li> </ul>
--

いる。

- ・未就園児クラス（満3歳児）への預かり保育の提供については9月より提供を開始。
- ・未就園児の教育相談については、子どもの育ちや発達を知る機会のある場として在園児とのふれあいの場を設定することはできた。また、担当者同士で連携し、保護者同士のつながりづくりに努めた。地域の方や元保護者や現保護者の方に子育てについての不安を話したり相談が受けられたりする場の提供については後期に計画している。
- ・地域の小規模保育事業所や就学前施設との連携については、複数の施設へ保育参観を実施することができた。小規模保育事業所へ園庭開放にも取り組めた。
- ・未就園児教育相談クラスの発信については、地域への発信に取り組んだ。
- ・保護者アンケート「未就園児の教育相談は、地域の子育て支援の場となっていますか」  
大変そう思う・そう思う95%

自己評価

#### 分析（成果と課題）

- ・ほっとチャットでは、子育て中の保護者の意見を聞くことができ、それぞれの保護者の学びや情報交流の場となっている。引き続き行っていきたい。参加できない方への場の提供が課題。
- ・未就園児クラス（満3歳児）への預かり保育の提供については、今後利用してみたいという声を聞いている。
- ・未就園児の教育相談については、継続的な参加が増え、担当者とのつながりや保護者同士のつながり、子ども同士のつながりが見られてきている。後期につなげていきたい。また、後期には元保護者や現保護者の方と話せる場の設定を企画していきたい。
- ・地域の小規模保育事業所や就学前施設との連携については、複数の施設へ保育参観に出かけることができ、環境や生活の様子等から学ぶことができた。また、教員同士のつながりもできた。園庭開放や竹間公園での交流などにも積極的に取り組んでいる。後期も引き続き取り組んでいきたい。
- ・保護者アンケート「未就園児の教育相談は、地域の子育て支援の場となっていますか」の結果、大変そう思う・そう思う回答が昨年度よりも上昇している。

#### 分析を踏まえた取組の改善

- ・子育て相談や未就園児教育相談の企画の工夫
- ・引き続き、地域の小規模施設や就学前施設との連携に取り組んでいく。

#### （最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標

- ・未就園児教育相談への参加者の意見
- ・未就園児教育相談担当者への聞き取り
- ・小規模保育事業所との連携状況
- ・未就園児教育相談についての発信状況
- ・「未就園児の教育相談」についての保護者アンケート結果

学校関係者評価

#### 学校関係者による意見・支援策

- ・子育て中の親は、子育てのことについて話せる人とつながれる出会いや場を求めていると感じる。取組の一つとして、園の担当者だけでなく、実際に今子育て中の現保護者の方と気軽に話せる場の設定を企画するなど取り組んでみてはどうか。

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果	
自己評価	分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題
	分析を踏まえた取組の改善
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策

### (5) 地域とのかかわり (社会に開かれた教育課程) に関して

具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幼稚園便りやホームページ等で幼稚園教育や幼稚園の活動、取組を発信する。</li> <li>・ 学校運営協議会の方や地域の方をゲストティーチャーとして幼稚園運営に参画していただき子どもや保護者と地域の方とをつなぐ。</li> <li>・ 地域の小規模保育施設や就学前施設、小学校とのつながりを広める。</li> </ul>
(取組結果を検証する) 各種指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幼稚園教育の発信状況</li> <li>・ 学校運営協議会による幼稚園教育への参画状況と取組の発信状況</li> <li>・ 学校運営協議会による学校関係者評価からの意見や改善状況</li> <li>・ 「学校運営協議会 (もえぎティンクル)」についての保護者アンケート結果</li> </ul>

#### 中間評価

各種指標結果	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幼稚園便りやホームページ等で幼稚園教育や幼稚園の活動、取組を発信した。</li> <li>・ 学校運営協議会の方をゲストティーチャーとして招き、地域の祭である祇園祭について年長児に向けて「祇園祭のお話会」を開催した。また、絵本ボランティアの方による絵本の読み聞かせに取組んだ。</li> <li>・ 地域の方と年長児が竹間公園にフジバカマの苗を植え育てる活動に参加。</li> <li>・ 保護者アンケート「学校運営協議会もえぎティンクルの活動は、幼稚園の経営を豊かにしていますか」大変そう思う・そう思う 96%</li> </ul>	
自己評価	<p>分析 (成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幼稚園便りやホームページ等で幼稚園教育や幼稚園の活動、取組の発信に取り組んでいるが、発信状況については課題が残る。</li> <li>・ 学校運営協議会のゲストティーチャーの方による祇園祭のお話会でお話を聞いたことにより、子どもたちの祇園祭への興味が広がったり深まったりした。大積み木で自分たちがのれる鉾を作り祇園祭ごっこの遊びにも発展した。また、祇園祭の見学に出かけたときには、お話で聞いたことを思い浮かべながら興味をもって見る姿がみられた。また、絵本ボランティアの方による読み聞かせでは、毎回子どもたちは楽しみにしており「今日は、誰が来てくれるの？」と絵本ボランティアの方にも親しみをもっている姿が見られる。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の方と年長児が竹間公園でフジバカマの苗を育てる活動に参加したことで、子どもたちはフジバカマという植物を自分の身近に感じ興味をもつことにつながっている。また、竹間公園という場で育てることで保護者の方にも一緒にその生長の様子に関心をもって見てもらえる機会となっていると感じる。</li> <li>・保護者アンケート「学校運営協議会もえぎティンクルの活動は、幼稚園の経営を豊かにしていますか」の結果、大変そう思う・そう思う回答が昨年度よりも上昇している。</li> </ul>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園教育や幼稚園の活動、取組の発信に取り組んでいきたい。</li> </ul>
	<p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園教育の発信状況</li> <li>・学校運営協議会による幼稚園教育への参画状況と取組の発信状況</li> <li>・学校運営協議会による学校関係者評価からの意見や改善状況</li> <li>・「学校運営協議会 (もえぎティンクル)」についての保護者アンケート結果</li> </ul>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域で安心して子育てできる環境が大切である。</li> </ul>

#### 最終評価

	<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p>
自己評価	<p>分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題</p>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p>

#### (6) 教職員の働き方改革について

	<p>重点目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ICT 機器の効率的な活用による業務の軽減</li> <li>・ 組織的な園運営と勤務時間への意識改革</li> </ul>
	<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ICT を活用したアンケート回答や弁当注文集計など</li> <li>・ 一人一人が自身の超過勤務時間の把握をし勤務時間に対する意識を高め、計画的な業務改善を目指し、超過勤務時間の短縮や年休取得につなげる。</li> </ul>
	<p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教職員からの聞き取り</li> </ul>

- ・ 超過勤務時間の短縮時間や年休取得状況

## 中間評価

各種指標結果	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ICT 機器を活用し、連絡アプリでの配信やアンケート回答、弁当注文集計等行った。</li> <li>・ 超過勤務時間の短縮については、昨年度の同時期と比べると減少している。年休取得状況については、昨年度よりも取得数に増加傾向がみられる。</li> </ul>	
自己評価	分析（成果と課題）
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 連絡アプリを利用し、アンケートや弁当注文の集計等の業務改善になっている。お便りやメール等、連絡アプリ配信だけでは周知が難しいことが課題である。</li> <li>・ 超過勤務時間の短縮については、教職員の働き方への意識も高まり昨年度の同時期と比べると減少している。管理職の超過勤務時間の短縮が課題である。</li> </ul>
	分析を踏まえた取組の改善
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 連絡アプリでの配信だけでは、周知が難しい。確実に伝達が必要なことは、紙で配布する等の工夫が必要。ICT の効果的な活用について考えていく。</li> <li>・ 組織的に改善に取り組む。</li> </ul>	
(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教職員からの聞き取り</li> <li>・ 超過勤務時間の短縮や年休取得状況</li> </ul>	
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策
ICT 機器を上手に活用して業務改善、働き方改革につなげて行ってほしい。	

## 最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果	
自己評価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題
	分析を踏まえた取組の改善
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策